

大田で平山郁夫版画展

東日本大震災子ども支援チャリティー

「平和への祈り」をテーマに日本文化の源流を求めてシルクロードを歩き、描き続けた

日本画家平山郁夫（1930〜2009年）の版画展が24日、大田市大田町の県立男女共



同参画センターあすてらすで始まった。27日まで。

全国の福祉施設・各種団体とチャリティー絵画展を開催している「ぼるぶエアーアンドアイ」（大阪府枚方市）が、平山郁夫の生誕90年記念としてシルクロード、仏教伝来、平和への祈りをテーマにした作品などの版画・工芸画作品約40点を展示。版画展の収益の一部は、日本ユネスコ協会連盟の「東日本大震災子ども支援募金」に寄付される。

会場では「パルミラ遺跡に行く」「流沙浄作品を鑑賞する人たち」24日、県立男女共同参画センターあすてらす

土変「薬師寺」などの代表作が展示され、来場者はスタッフから説明を受けながら作品を楽しんでいた。

この版画展は2003年から全国各地で開催し今年で97回となったが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で3カ月間は会場を確保することができず、再開後も感染症対策を十分に行っている。担当の細川則幸さんは「作品の力というは思った以上にあるので、こういう状況だからこそ、作品を見て少しでも元気になっていただきたい。美術館の誘致にもつながれば」と話していた。

会場では特別企画として「日本美術名作展」も開催。横山大観、東山魁夷、片岡球子らの作品も見ることができ、入場無料。問い合わせは、ぼるぶエアーアンドアイ（電話072・8055・0595）まで。